

平成 30 年度 花粉測定講習会

と き 平成 30 年 12 月 16 日 (日) 10:00 ~ 12:10

ところ 山口県医師会 6 階大会議室

講演及び報告：山口県医師会花粉情報委員会委員長 日吉 正明
 報 告：山口県医師会副会長 今村 孝子

花粉測定のさらなる精度向上のため、毎年度、標記講習会を開催しており、今年度も講演 1 題並びに花粉測定の実技講習等を行った。

講演

春に見かける花粉

山口県医師会花粉情報委員長 日吉 正明

花粉測定を行う各測定機関の先生方の参考として、測定期間である 1 月から 4 月末までの 4 か月間にダーラム型花粉採集器に採取される主な花粉について講演を行った。

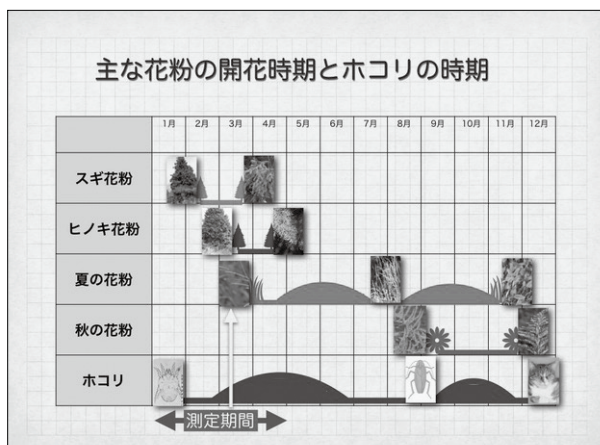
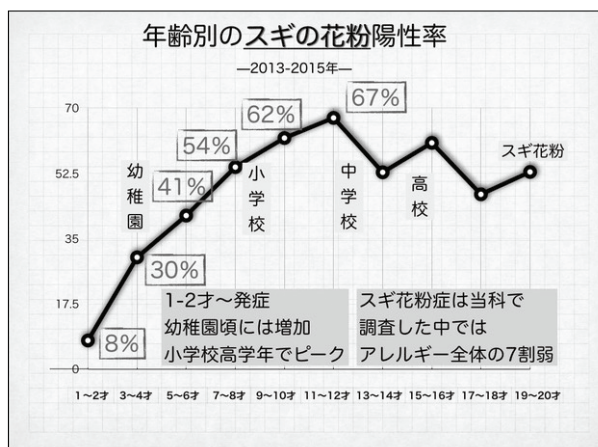
まずは、花粉測定期間に開花し飛散する花粉の時期をグラフ表示した。スギ花粉(2月から3月)、ヒノキ花粉(3月から4月)がメインとなる花粉であることを説明。ここにスギ花粉の途中からブナ属のハンノキ花粉が、4月頃から夏の雑草であるイネ科花粉が混じってくること、また、キク科花粉であるハルジオンについて顕微鏡像からの鑑別点を供覧し確認した。

また、2013 年から 2015 年に当クリニックで採血検査した IgE-RAST から、スギ花粉症は 2 ~ 4 才でスギ花粉症の 30%が発病、小学校卒業頃

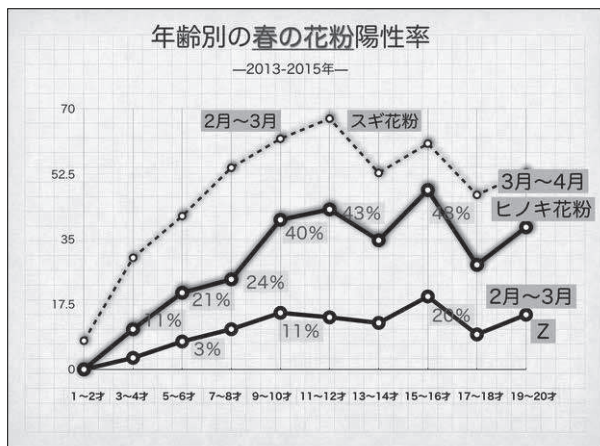
にはほぼすべての方が発病すると報告した。

2016 年にアレルギー性鼻炎ガイドラインで示された、2008 年の時点での各県の耳鼻咽喉科医のアレルギー有病率の中で山口県の有病率は 27.3%であったこと、また、アレルギー性鼻炎全体は 47.5%の有病率であったことを報告した。

一方、平成 28 年の東京都の報告で東京都内の 4 市の集計から昭和 62 年は 10.0%、平成 8 年は 19.4%、平成 18 年は 28.8%、そして平成 28 年は 48.8%のスギ花粉有病率であったことを付記した。この結果から、山口県の平成 20 年の成人

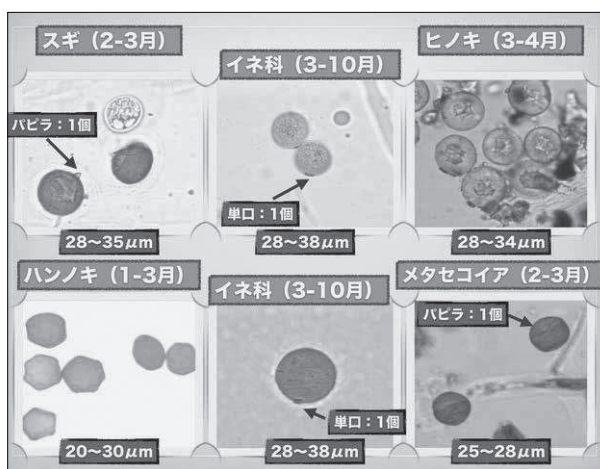


- 最近のスギ花粉症の発症年齢と有病率は
- 山口県では、1才頃から発病し、幼稚園ごろ急速増加
- 中学生でほぼ発病
- 全人口の28.8% (2008年の成人の調査)
- ホコリ、その他を合わせて47.5%
- (東京都ではスギ花粉症が48.8%)
 - 山口県人の3割がスギ花粉症
 - 他の原因を合わせて5割のヒトがアレルギー
 - 山口県の人口137万人、41万人 (30%)



し、それを顕微鏡で観察してそれぞれの花粉の特徴を理解する作業を経験していただく実技講習を受けていただき、対象者の方々は非常に熱心に学ばれていた。

[報告：今村 孝子]



スギ花粉有病率 27.3%は 10 年後の平成 30 年の子どもを含む有病率は 40%以上、45%に近いのではないかと推測し報告した。

スギ花粉症は現時点では山口県民の実に 4 割から 4.5 割の方が罹患する県民病の一つではないかと報告し、各測定機関の先生方の報告データは県民の実に半数近くの方の健康を守るために有意義なデータとなることを強調した。

[報告：日吉 正明]

花粉測定の実技講習

花粉測定の精度を高めるために、毎年、実技講習を開催している。まず、本会花粉情報委員の金谷浩一郎先生がスライドを使用して、花粉の測定方法、染色液の種類、染色方法、測定に関する注意点等について説明された。その後、測定の経験が浅い数名の出席者には、金谷先生並びに同委員の菅原一真先生の指導によりスギ、ヒノキ等の乾燥花粉を用いて実際にプレパラートを作成

測定地点

地区	地域	測定機関 (敬称略)
東部	岩 国	河田尚己
東部	岩 国	小林耳鼻咽喉科医院
東部	柳 井	周東総合病院
東部	柳 井	松田医院耳鼻咽喉科
東部	大 島	さくら薬局
東部	光	光市立光総合病院
中部	防 府	ひよしクリニック
中部	防 府	カワムラ薬局
中部	山 口	済生会山口総合病院
中部	山 口	為近純子
中部	山 口	耳鼻咽喉科かめやまクリニック
中部	小 郡	小郡第一総合病院
西部	宇 部	沖中耳鼻咽喉科クリニック
西部	小野田	山陽小野田市民病院
西部	下 関	下関市薬剤師会
北部	美祢市	美祢市立病院
北部	長 門	長門総合病院
北部	長 門	綿貫耳鼻咽喉科
北部	萩	ナカモト薬局
北部	萩	堀耳鼻咽喉科医院

(平成 31 年 1 月から)